

田んぼと生物・文化多様性

～なぜ生物多様性が文化の多様性を守るのか～

ラムサール・ネットワーク日本の「田んぼの生物・文化多様性 2030 プロジェクト」では、生物多様性を育む持続可能な農業の実現を目指して、新たな「水田目標 2030」を策定しました。多様な地域の田んぼ景観と生物相は、地域の方々の長年の営みに培われてきたものです。田んぼ 2030 プロジェクトでは、それを田んぼ文化として位置づけ、プロジェクトの名称にも「文化」を取り入れ、2030年までに田んぼの生物・文化多様性の主流化の達成を目指しています。ミニフォーラム第1回は、生物・文化多様性とはどのようなことを表し、具体的な活動にはどのようなものがあるのか、NPO「環境・持続社会」研究センター代表理事、國學院大学客員教授で、ラムサール・ネットワーク日本の顧問でもある、古沢広祐さんに話題提供していただき、水田目標 2030 での取り上げ方、進め方などを参加者と意見交換します。

日時：2022年8月19日（金）18:00～19:40
オンライン開催（Zoom ミーティング）
参加費：無料 要事前申し込み
主催：ラムサール・ネットワーク日本

【申し込み】

下記のオンラインフォームからお申し込みください。
<https://forms.gle/cSYXGRy6zAwNSjEc7>

【プログラム】

第1部 話題提供

「生物多様性」が“文化の多様性”を守る理由

話題提供：古沢広祐 さん

（國學院大学 客員教授／ラムサール・ネットワーク日本顧問）

第2部 参加者との意見交換

「地域の生物・文化多様性の事例を集めよう／おらが農村文化自慢」

【問い合わせ】

NPO 法人 ラムサール・ネットワーク日本
東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル 3F
〒110-0016

Eメール info@ramnet-j.org

古沢広祐（ふるさわ こうゆう）

1950年生まれ。大阪大学理学部生物学科卒業。京都大学大学院農学研究科博士課程研究指導認定（農林経済）、農学博士。2020年に國學院大学経済学部を定年退職、現在は國學院大学研究開発推進機構・客員教授。専攻は持続可能社会論、総合人間学。著書・共著に、『地球文明ビジョンー「環境」が語る脱成長社会（NHK ブックス）』（日本放送出版協会／1995年）、『環境と共生する「農」～有機農法・自然栽培・冬期湛水農法』（ミネルヴァ書房／2015年）、『食べるってどんなこと？あなたと考えたい命のつながりあい』（平凡社／2017年）、『食・農・環境とSDGs 持続可能な社会のトータルビジョン』（農文協／2020年）など。



「田んぼの生物・文化多様性 2030 プロジェクト」とは

田んぼ 2030 プロジェクトは、2050年を目標年とする長期目標 2050年ビジョンと、2030年を最終目標年とする短期目標 2030年ミッション、さらに22の水田目標から成り立っています。

詳しくは→<https://tambo10.org/plan>

※このミニフォーラムは地球環境基金の助成を受けて実施しています。

※「田んぼ 2030 プロジェクト」は以下の企業などからのサポートをいただいています。

JA 全農・コープデリ事業連合・MS&AD インシュアランスグループ



MS&AD インシュアランスグループ